

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
井原市	井原市畜産クラスター協議会	令和4年3月18日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	29.9ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	29.9ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	3.6ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	2ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	6.5ha
(備考)	

注1：③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

井原市畜産クラスター協議会の中心的経営体の内、後継者未定の耕作面積は10.6haあり、新たな農地の受け手の確保が必要。また、規模拡大を希望する中心的経営体に対する新たな農地の貸し手の確保も必要。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

井原市畜産クラスター協議会の農地利用は、中心経営体である認定農業者8経営体が担うほか、新たに協議会への入会を希望する認定農業者や認定新規就農者がいる場合は、貸し出し可能な農地を紹介するなど農地集約化に努める。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

遊休農地の活用

農業委員に相談するなどして、作付がされていない遊休農地を把握し、条件の良い農地があった場合は積極的に借り受ける。

農地中間管理機構の活用方針

将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。

中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

5 中心経営体

別紙のとおり

※別紙は、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれるため省略